

フリーダ・カロが、

遺したものの

写真家の石内都さんは、メキシコを代表する画家・フリーダ・カロが暮らした「青い家」で死後封印されていた遺品を三週間かけて撮影した。六歳でポリオにかかり、一八歳のときに瀕死の事故にあつたフリーダは、生涯体の不自由さや、痛みを抱えながら、画家として恋多き女性として、四七歳で亡くなるまで駆け抜けるように生きた。

※四六ページもあわせてご覧ください。

